

〈新木場〉気になるスポット 「dac デザインアートセンター」を訪ねて

月報委員長
本西 宏行

新木場には、誰もが知るランドマークとなる建物があります。

「黄色いビル」と聞いて場所が分からない方はいらっしゃるのでは？

どんな会社が入っている建物なのでしょうか？

近くに居ても知らないことが、新木場にはまだまだ沢山あります。

そんな、気になるスポットを今回は訪ねて来ました。



取材に際して…

東京木材問屋協同組合主催のワクチン職域接種のご縁から「黄色いビル」のオーナー企業の(株)デザインアートセンター (dac) 様との接点が出来ました。

職域接種にご賛同頂き、社員の方々の多くが接種に参加して頂きました。

実は9月号に掲載させていただいた「田口音響研究所」様も dac 様の本社ビル内を間借りされており、横目で dac 様の工場や社屋内を拝見しておりました。

(この場をお借りして、取材後に急逝されました田口社長のご冥福をお祈り申し上げます)

その際に、有名メーカーのロゴが掲げられたディスプレイパネルを目にし、dac 様の事業にもたいへん興味を覚えたことを思い出します。

取材当日は、井手口会長・吉田社長・鬼ヶ原部長から会社の変遷や新木場移転の話と貴重なお時間を頂き、取材に対応して頂きました。

新木場のランドマーク

dac 様の前身は銀座にあった材木屋とお聞きしました。(掴みは身近な話?)

ご当地老舗百貨店の店舗内装を手掛ける流れから、新たな事業展開として江東区古石場に内装施工会社を設立され、木材業界の新木場移転に際して江東区内の各所に点在していた加工場を、現在の新木場「黄色いビル」に集約されたそうです。

その後、隣接地を入手され本社ビルを建設されたので、現在「黄色いビル」は制作工場・塗装工場として活用されております。

建屋内部はまさに木工加工場、職人さん達が所せましと作業工程に配置され、部材制作・塗装工程・仮組み立てまで一貫した施工体制が確立されており、現地配送までも関連会社による搬送と徹底されております。

施工時間の制約が多いイベント関連のディスプレイなどには、大きな強みを持つことがうかがい知れます。



新木場拠点の魅力

社業は元請けとして、店舗内装をはじめとしてイベント会場の設営等、その顧客は有名企業がズラリ。(守秘義務から施工写真の一部しかご紹介できないのが残念…)

商圏は全国とのことです、やはり一大消費地の首都圏(特に東京23区内)で自社工場やデザイン部門を持つ施工体制は同業者の中でも唯一無二の存在。

新木場に拠点を置くメリットとしてアクセスの利便性はもとより、木材集積地としての立地内なので資材の入手のし易さを挙げられていらっしゃいました。

材料のうち木材に関するの調達は、ほとんど新木場内で賄っている様子です。



dac様 工場竣工時 写真中央黄色い建物(昭和50年)



百貨店スポーツシューズ売場改装



飲食店新装



ランドセルメーカーの展示会

将来への取組み

dac様の施工時間短縮を考えた、原寸場での仮組み・分解搬入・現地本組立ての施工体制は、我々の木材業界にも一筋の光明をもたらしていると考えます。

木材の流通販売だけについつい目が向かいがちですが、dac様への取材を通して現場で木材を取付けて頂ける職人さん(大工さん)がいなくなれば、木材の利用促進も滞ることに気づかされます。

熟練工の高齢化に伴う労務不足はすぐそこまで迫っており、木材販売も半完成品・工場ロックダウン品にならざるを得ないと、将来を見据えていらっしゃいます。

そんな中、せっかく新木場を所在地としているので、域内で横との繋がりをもって深めて行きたいとお話を伺いました。

また、工場の一角ではエンドユーザーを対象とした自社ブランドの木工家具製作にも注力され始めております。

「商売として成立するか、まだ試作段階の研究中…」

と、ご謙遜されておりましたが

『何事にもチャレンジしなければチャンスなし』と取材メモに書き止めました。



dac様が実用新案を取得している換気に有効な展示用パネル
商品名：クランパヤンウォール

今後の課題として、従来の「公共建築物等における木材利用の促進に関する法律」が一部改正されて「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が10月より施工されたことにより、公共建築物のみならず民間建築物にもその範囲が広がりました。

SDGs(持続可能な開発目標)の掛声のもとに『使用木材は森林認証制度の認証材とする』と、設計図書の特記事項に記載が散見されはじめ、今後ますますその記載が多くなっていくであろうとの予見から、森林認証制度への対応をどうするか模索中とのことでした。